

<今日の説教のポイント マタイによる福音書1章1～17節>

①系図から始める意味は？ 旧約の続編？ 神の選びの民は続く！

新約聖書を開くとまず出て来るのがこのやっかいな系図です。系図は旧約聖書によく出て来ます（例：創世記5章）。マタイは、「イエス・キリストの出来事は旧約聖書の続きなのだ、つまり、神様が選ばれた民によってなそうとされている出来事の続きなのだ」と考えているのです。

②不思議な系図。 こんな過去、こんな人物を入れる？

アブラハム、イサク、ヤコブと来れば次はヨセフと思いますが、そうではなくユダに行くばかりか(2)、次の「ユダはタマルによって…」(3)とある出来事は普通は系図から外したくなるような出来事です（創世記38章）。その他、遊女ラハブ(5)、ダビデ王が奪い取ったウリヤの妻(6)バト・シェバと、ファミリーヒストリーとしては普通なら載せたくないはずの名が堂々と載せられている系図なのです。さらに言うなら、ルツ(5)も加えて、この系図に「…によって」と載せられている女性は皆、イスラエル人ではない異邦人なのです！ 神様が選ばれたイスラエル人だけに関係する特殊な系図と思いきや、むしろ、全ての民族、そして善人も悪人も全て含まれている系図のように思われて来るのです。

③系図の展開が示すもの。発展 → 繁栄 → 転落 → 回復。そして…

系図は大きく3つの時代に区分され(2-6a, 6b-11, 12-16)、明らかに、何かをそれで示そうとしていることが分かります。何でしょうか？ 旧約聖書に精通すると分かるのですが、この系図を見ていると、イスラエルの発展、繁栄、転落、回復の歴史を思わずにはおれません。イスラエル人がどういう姿を示して来たか、それによってどうなったか。一方、そんな彼らに聖書の神様はどうされたか。人間の罪と、赦しに満ちた憐み深い神様を知らされます。この系図の最後にイエス・キリストの誕生を記したマタイ。「この神様が、救い主イエス・キリストを私たちに送って下さったのだ」、マタイはきっとそう言いたかったのでしょうか！

④創造主だけでなく、救い主でもある神様。この神様と共に生きる！

創造の最初アダムからではなく、救済の最初アブラハムから始めるマタイのイエス・キリストの系図。この創り主にして救い主なる方を信じて生きるなら、誰でもアブラハムの子孫なのです（ガラテヤ3：7～9）。